

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

小中合同あいさつ運動（小中一貫教育）

7月4日の朝、小中合同あいさつ運動が行われました。これも何度かご紹介していますが、小中一貫教育の一つの取組です。御勅使中の生徒が来てくれ、本校の児童とともにあいさつ運動を進めてくれました。双方にとって良い刺激になるとともに、児童生徒の連携意識も強まることを期待しております。



今年度の運動会について 現時点の考え

10月1日に予定されています運動会について、各種通知や留意点に注意を払いながら検討しているところです。7月1日のPTA役員会で、体育主任より現時点での考えを示させていただき、ご了承いただいたところです。しかし、昨年度も8月後半より感染状況が悪化し延期となったように、**今年度も今後の状況によりましては、大きく変更される場合もあります。**また、詳しい実施内容につきましては、9月に配布いたします。

① 半日開催（昼食無し）で実施予定。

② 種目は昨年度と同じか一つ増やす程度とし、当日と合わせ練習時間の短縮を図る。

③ 校庭での密を避け、マニュアルに沿った感染対策を行う。

- ・外でのマスク着用緩和に沿って、昨年度のブロック開催から半日を通して全校開催とすることも視野に入れて、今後プログラムを考えていきたい。
- ・保護者の場所取り、テントやシートなどは遠慮していただく。一家庭での参観者数を2名程度に制限し、観覧スペースでの応援は当該学年保護者のみとしたい。
- ・当日朝の交通整理などの負担軽減や、学校内での事故防止のため、徒歩での来校をお願いする（校外にある可能な駐車場は押さえていく）。

④ 児童、教師、保護者とも感染症対策の徹底（マスク、手洗い、消毒等）。

- ・児童競技時はマスクを外す。移動時や見学時は着用。保護者には着用をお願い。

運動会等の実施における留意点（文部科学省等より）

○3つの重なり（密閉・密集・密接）を避けるように。

・実施内容や方法（例えば半日での開催など）の工夫が必要。①②

・地域の感染状況によって、延期、実施時期の検討。①

・児童生徒が密集する運動や近距離で組み合ったり接触したりする運動については、安全な実施が困難な場合は見合わせる。②

・開閉会式での児童の整列、応援、保護者等の参観、昼食等密集しないような工夫。③

・保護者等に対しても、手洗いや咳エチケット等の感染症対策の徹底。④

※マスク着用についての通知（2022.5.28）③



百聞は一見に如かず…その続きは？

人から何度も聞くよりも、自分の目で一度見たほうがよくわかるという意味から「百聞は一見に如かず」という言葉をよく使います。学校においても、教科書などで学んだことを実際に見て深めようということで、生活科見学や社会科見学、修学旅行などが計画・実施されています。また、林間学校などの体験活動もあります。さらに外部講師を招き、生の声を聞いたり直に教えていただいたりしています。確かに自分の目で見ることは大切なことです。では、この「百聞は一見に如かず」の続きはないのでしょうか？見ることも大切なことになることはあるのでしょうか？

実は、この続きは以下の通り実在いたします。

「百聞は一見に如かず」

たくさん聞くより、実際に見るほうがいい。

「百見は一考に如かず」

たくさん見るより、考えたほうがいい。(見るだけで、考えなければ意味がない。)

「百考は一行に如かず」

たくさん考えるより、行動すべき。(考えるだけでなく、行動しなければならない。)

「百行は一果(効)に如かず」

ただ行動するだけでなく、成果を出さなければ意味がない。



つまり、聞いて、見て、考えて、行動して、成果を出す・・・学習でもスポーツでも上達しようと思ったら、まずはしっかりと聞く(教わる)→実際にどうしたらよいか見る→自分なりに考える→行動(勉強・練習)にうつす→成果を出す。

「聞いただけで分かったような気になる」「見ただけでできそうな気になる」「考えるだけでやったような気になる」「行動しただけで満足し、結果が出ない」・・・こんなことの戒めでしょうか。昔の格言には、深いものがありますね。さらに続きが・・・。

「百果(効)は一幸に如かず」

成果を上げるだけでなく、幸せにつなげなければならない。

「百幸は一皇に如かず」

ただ幸せということだけでなく、みんなの幸せにつなげなければならない。



新学習指導要領の全面実施に伴い、アクティブラーニング(主体的で対話的、深い学びが重視され、授業改善が求められています。かつてのような講義型の授業ではなく、児童が学びの主体となり、自ら課題を持ち、学びを進め、時には意見をぶつけ合い(自他)、考えを深め、結論を出し、またそこから新たな課題を設定し学んでいく。このような学習活動をスパイラルに進める中で、知識・技能の定着とともに、思考力・判断力・表現力、更には探求力の伸長まで図っていきます。この学びが将来の可能性を広め、一人一人の幸せにつながり、やがて社会全体の幸せにつながってくれることを、この格言から感じております。「聞いて、見て、考えて、行動して、成果を出す。さらに個人の、また社会全体の幸せにつなげていく。」・・・ぜひ児童にも伝えたい一言です。